

## 薬剤師から見た包括病棟における医薬支出の削減対策 第1報

### ～薬剤費削減に向けた処方内容の調査～

南雲 玖美<sup>1)</sup> 山下 雄介<sup>1)</sup> 中根 丈晴<sup>1)</sup> 風晴 俊之<sup>2)</sup> 美原 盤<sup>3)</sup>

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 薬剤部

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 事務部

3) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 院長

[はじめに]回復期リハビリテーション病棟(回りハ)、地域包括ケア病棟(地ケア)においては、薬剤費は診療報酬制度上包括されており、医薬支出の中での薬剤費は病院運営上の大きな課題である。そのため、病院薬剤師にはこれらの病棟の薬剤費をしっかりと意識することが求められる。そこで今回、当該病棟の薬剤費削減に向けた対策立案のために処方内容を調査した。

[調査対象と方法]2021年4月に1日以上入院していた患者134名(回りハ107名、地ケア27名)において、各患者に処方された薬剤(外用薬、臨時薬、頓服、持参薬を除く)と使用量を調査し、患者1人あたりの薬剤種類数(種類/日)および、推計薬剤費(円/日)を算出した。さらに、患者1人あたりの推計薬剤費が平均を上回った患者を抽出し、その患者の薬剤種類数(種類/日)を調査した。また、処方された薬剤ごとに1ヶ月間の合計金額を算出し、合計金額の高かった薬剤を調査した。

[結果]患者1人あたりの薬剤種類数は、回りハで $4.8 \pm 2.5$ 種類/日、地ケアで $4.6 \pm 2.6$ 種類/日であった。患者1人あたりの推計薬剤費は、それぞれ $269 \pm 255$ 円/日、 $333 \pm 373$ 円/日であった。この薬剤費を上回る患者は、回りハで46人(43%)、地ケアで11人(41%)であり、薬剤種類数はそれぞれ $6.7 \pm 2.3$ 種類、 $7.2 \pm 1.3$ 種類であった。また、1ヶ月間に使用された薬剤は高額順に、回りハではエリキュース錠<sup>®</sup>、タケキャブ錠<sup>®</sup>、リクシアナ0D錠<sup>®</sup>で、上位10種類中8種類が先発医薬品であり、地ケアではサムスカ0D錠<sup>®</sup>、トラゼンタ錠<sup>®</sup>、イーケプラ錠<sup>®</sup>で、上位10種類中7種類が先発医薬品だった。

[結語]平均薬剤費を上回る患者は、いずれの病棟でも4割以上おり、服用薬剤種類数は6種類を超えていた。これらの病棟の薬剤費削減のためには、積極的なポリファーマシー対策の実施と後発医薬品の使用が求められる。